

先人の知恵から

13

かうんせりんぐるうむ かかし

河岸 由里子

保護者と話す機会が多いが、諺や故事を口にする、「それはどういう意味ですか？」と聞かれることが増えた。意味を説明すると、「へえ〜」「ほ〜」と感心される。古くから言われていることは、全部とは言わないが、今の人たちに響くことも多い。そう思って書き続けて3年。勝手に書いているので、周りでどのように受け止められているかは気にしていないが、この調子で書いていたら、50音の最後まで行くのにいつまでかかるのかとちょっと不安になっている。

今回は「お」のつくものから、次の8つを挙げてみた。

- 鬼も十八番茶も出花
- 己の欲せざるところは人に施す勿れ
- 溺れる者は藁をも掴む
- 思い内にあれば色外に現る
- 思う事言わねば腹ふくる
- 親の甘茶が毒となる
- 親の恩は子で送る

<鬼も十八番茶も出花>

器量の悪い女性でも、年頃になれば皆娘らしい魅力や色気が出てくる、粗末な番茶でも最初に湯を注いだばかりの一番茶は、香りが良くておいしいと言う意から。京都のいろはがるたの一つ。

最近の子ども達は、中々器量が良くてこんな諺を使う事も少なくなったが、時折、保護者から我が子の不器量を嘆く声が聞かれる。我が子なのに「ぶす」とか「ぶさいく」と言って、子どもの心を悪戯に傷つけている保護者もいる。思春期の子ども達は自分の器量を気にしだして、整形手術をしたいと言いだす子もいる。「一重の目がいやだ」「鼻が低い」「顎が張りすぎている」などと自分の顔を鏡で見ても「目と鼻を整形するまでは学校に行かない」とまで言いだす。不登校になっては困ると保護者が整形

を許す事例もちらほら出てきている。しかし、女の子は、年頃になるとそれなりにきれいになるものである。特に恋をすると、見間違ふほどになることさえある。化粧が更にそれを引き立てる。

18歳と言うと、夢や希望に溢れ、恋をしたり、バイトをしたり、ちょっと大人の雰囲気になる。お化粧も子ども達は上手にするので、きれいに化ける。ファッションも決め、スタイルもそこそこ良いので、輝いている子が多い。この年齢から上10年くらいが出花か。例え器量が悪くても、我が子を「ぶす」だの「ぶさいく」だの呼ぶのではなく、良い所を褒めて、子ども自身が器量で悩んでいたら、この諺を伝えてあげて欲しいと思う。

英語では・・・

Everything is good in its season. (物はすべて旬が良い)

＜己の欲せざるところは人に施す勿(なか)れ＞

自分がして欲しくないと思う事は、他人にとっても同じことだから、他人にしてはならないと言う戒め。出典は論語

似た言葉に「わが身抓って人の痛さを知れ」というのがある。これらの言葉はとても分かりやすい。最近の子育ての場面では、子ども達は親が望まないことはしないように気を付けている。ところが親の方は、自分が望むような子に育てたくて、子どもの意向を考えない場合がある。自分の基準で

考えてしまうと問題が起こる。

小学校での出来事。ある子が暴力をふるうので、人を叩いたらいけないということを伝える際に、先生が「叩かれたら痛いでしょう？痛いのは嫌でしょう？あの子も叩かれて痛かったんだよ。だから叩くのは辞めようね。」と言う話をした。するとこの子は「あいつが嫌なこと言うからいけないんだ。叩かれたって、僕は痛くないもん。叩かれたって平気だもん。だから叩く。」と言った。こういう子には、この諺は通用しない。説得しようとするのではなく、駄目なものは駄目と単純に伝えた方がこういう子には良いのかもしれない。

では自分がして欲しいことを他人にすればよいのかと言うとそういうわけでもない。

こんな事例があった。女の子なのだが、余り女の子らしい、フリルが一杯付いた服が嫌いな子だった。しかも周りの女の子達も、ヒラヒラのついた服は着ていないのに、母親がその子にそういう服ばかり着せた。子どもは学校でいじめに遭う羽目になったが、母親には話さなかった。母親は自分の好みの服だったのだろう。もしかしたら母親自身が子どもの頃着たかった服だったのかもしれないが、子どもの気持ちを無視した行為であった。その後母子の関係は最悪になり、その子は家出少女となった。

自分がして欲しいと思う行為であっても、相手が好まないということもある。しかし一般的には、自分がして欲しくない事はしない方が良い。せめてこれだけは最低限守って欲しいものだ。

英語では・・・

Do as you would be done to. (人からし

てもらいたいとおりに、人に対してやりなさい。)

＜溺(おぼ)れる者は藁(わら)をも掴(つか)む＞

困難に直面している者は、手段を選ばず、どんな物にでもすがりついて救いを求めようとすることのたとえ。元々は英語のことわざ。

困っている人、悩んでいる人は、視野が狭くなりがちで、グルグルと同じところを回って悩んでいたりする。更に困ってしまおうと、何も見えなくなってしまう事さえある。目の前に手を差し伸べてくれる人がいるのに気付かず、あらぬ方向に手を伸ばしてしまうケースに度々出会う。

誰かに相談すればよかったのに、或いは何か違うことをしてみればよかったのと思うことがあるが、そういう時に入り込んでくるのが宗教や占いではと思う。

「困った時の神頼み」などと言う言葉もあるように、やるだけの事をやったら後は神様に頼もうということで、合格祈願や就職祈願に神社に通う人も多い。宝くじが当たりますようにと祈っている人も多いだろう。それはそれで本人の安心感の手伝いになることもあるので特に問題は無い。誰に迷惑を掛ける話でもないし。

ただ、怪しげな宗教や占いに頼ってしまうと問題に巻き込まれることがある。

問題解決や困難を乗り越えるために、板切れを数百枚庭に埋めろとか、高価なツボを買えとか、酷い場合は離婚しろとか、家族

を壊すようなお告げ(?)があったりする。それをまた真面目に言われたとおりに実行する人がいる。

不登校の子どもがいて、不登校になったのは先祖に不義理をしているからだと言われて、遠くまでお墓参りに行った方がいた。お墓参りに行く事自体は別に悪い事ではないが、それで問題が解決されるはずもない。お墓参りに行っても変わらなかったと、よせばよいのに再び相談に行ったら、今度は〇〇を買って家に置き、毎日拝みなさいと言われて。その方は、子どものためと思って数十万もする〇〇を買って拝んだ。それでも解決するはずはない。そこで初めて騙されたと思ったそうだ。数十万で済んだことが、「良い勉強になった」と諦められる値段かどうかは家によって違おうだろう。なけなしの貯金をはたいてしまっていれば目も当てられない。

平静であれば、そんな事には引っかからないのだが、困って居る時は簡単に引っかかってしまい、結果、更に困ったことになり易い。気を付けたいものである。

英語では・・・

A drowning man will catch at a straw.

＜思い内であれば色外に現る＞

何か心に思っていることがあると、自然に表情や動作に現れるということ。「心内であれば色外に現る」ともいう。出典は大学。

子ども達と面談をしていると、友人の関

係性に悩んでいる子が多い。人の様子に過敏に反応し、「あの人私の事嫌いなんだ。」と言う。「どうして？何か言われたの？」と聞くと、「そういう雰囲気、態度だから。」と言う。

本当に嫌っていて、あからさまに態度に出している子は確かにいる。しかし最近の子は余り外に感情を出さない。となると思い過ごしということが多い。それ故、子ども達には思い過ごしかもしれないということを上手く伝え、確認してみることを勧める。

ただ、いじめられて居る子で、口で「辞めて」とか「嫌」と言えない子には、担任や親に相談することも勧める一方で、この諺を伝える。全身で「嫌だ」「辞めて」という思いを表現することで、避けられるいじめもある。

困った時に笑顔になってしまう発達障害の子がいるが、そういう子には「嫌だ」と言う顔を練習して貰ったりする。

人を嫌っていればそれは言わなくても伝わってしまうことは確かにある。相談場面で、「この人苦手だ」と思いながら話を聞いていると、そういう雰囲気が相手に伝わるだろう。支援者として気を付けなければならぬ。

子ども達のためにも、我々支援者のためにも使える諺ではなかろうか。

英語では・・・

The face is the index of the heart. (顔は心の指標)

<思う事言わねば腹ふくる>

思っていることを、差し障りがあるからと言って言わずに我慢していると、食べ過ぎて腹がふくれている時の様に気分が悪いものだということ。

この諺は子ども達によく使う。小さい子には風船を例にして説明する。腹が立ったことを我慢し続けると、風船に空気を入れ続けているようなもので、どこかで爆発してしまう。爆発してしまう時は、思いもよらぬことを言ったりしてしまう。その結果、周りの人との関係性を最悪にしてしまうこともある。だから、腹が立ったことは我慢し続けるのではなく、小出しにして行くことが大切と伝えている。

大人でも同様だと思う。矯めて貯めて爆発するのは、大人であっても良い結果にならないだろうから。大人が先ずは見本を見せて行くと良いのではと思う。

<親の甘茶が毒となる>

子どもを甘やかして育てることは、その子の将来のためによくないということ。

「毒親」という本があった。子どもにとって毒となる親は今も昔も変わらないと思う。

先ずは、子どもを虐待する親。この手の親はもちろん毒であろう。それは誰もがわかる話だ。一方、甘やかしすぎる親も問題だ。子どもが少なくなり、親も祖父母も子どもがかわいくて仕方がない。小さいうちはともかく、ある程度自分の事を自分で出

来る年頃になれば、手放していかなければならない。それが出来ない親や祖父母がいるために、子ども達はこの上なく甘やかされて、依存的になってしまう。そんな過保護は子どもにとって一つも良い事は無い。

子どもに愛情を向けることは当然の事で、それ自体は問題ない。では過保護とはどういうことであろう。子どもが自分でできることに手をだし、子どもが決めたいことを決めさせず、何でも子どものためという大義名分のもと、大人の思い通りにしてしまうことである。親は子どもの自立を喜べるよう、親自身が自立することも必要である。子どもの自立こそが、子育ての最終目標なのだから。

<親の恩は子で送る>

親から受けた恩は、我が子を立派に育てることで恩返しできるということ。親に恩返しができる頃には親はもう生きていない場合が多いことから。

親と言うものは子どものためならどんなにでも頑張れるものである。そんなに頑張ってもらっても、子どもが十分な恩を返す前に、親が亡くなってしまうことがある。親への感謝の気持ちを伝えたくても伝えられない。しかし親はそんなに子どもから恩返しをして欲しいと思っている訳ではない。親にとっての一番の恩返しは、子どもが成長し、自立し、元気に暮らしてくれることである。それが親と言うものだろう。そしてもし出来れば、結婚して子を持ち、その子を元気に育ててくれれば、親の血が繋が

って行く。それもまた嬉しい事だろう。たまに元気な顔を見せてくれたり、声を聴ければそれでいい。

今回はここまで。

出典紹介

大学

一卷。孔子の遺書とも子思または曾子の著作ともいう。もと「礼記」中の一編（第四十二）であったが、宋代以後、単行本として独立し、朱熹（朱子）がこれを四書（『大学』『中庸』『論語』『孟子』）の一つとしたことから、特に広く読まれるようになった。修身、齐家、治国、平天下の道を説く。朱熹が全文を「経」と「伝」に整理し、三綱領（明德・止至善・新民）、八条目（格物・致知・誠意・正心・修身・齐家・治国・平天下）の体系をたてた。

論語

三十卷。儒教の経典。『大学』『中庸』『孟子』と共に四書の一つ。孔子の言行や門人たちとの問答を記録した書で、孔子の死後に門人たちが編集したものといわれる。孔子は諸国を回って仁の徳による政治を説いたが、本書は講師の人物や思想を知る上できわめて重要な資料である。